

6
古典

■学習日 /

要点チエック

● 次のそれぞれの意味を持つことばを下の——線部から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 「おくになる(尊敬)」
 - ア ありがたいもの、舅むすこにほめらるせむる婿むよめ
 - イ ふるさと、限りなく思ひ出でらる
 - ウ 先生、かく教えられき
 - エ 弓矢して射られじ

- (2) 「しせる(使役)」
 - ア 夜よごとに人をすゑて守らせければ
 - イ 帝みかど、吉野へ行かせ給ふ
 - ア 明日雨降るべし
 - イ 言ふべくして行ふべからず

- (3) 「ししよう(意志)」
 - ウ 勉強は学生としてなすべき本務なり
 - エ 午前八時までには必ず出頭すべし
 - オ この一矢に定むべしと思へ

- (4) 「来ない」
 - ア 秋来ぬき
 - イ 来ぬこ人
 - ア 花の咲くなむ待たるる

- (5) 「咲いてほしい」
 - イ 花咲かなむ
 - ウ 花咲きなむ

- (6) 「降るので」
 - ア 雪降れば寒し
 - イ 雪降らば寒し

確認問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

* 思ふどち四、五人 * いざなひて * 清水へ詣まうでしが、茶屋に腰かけながら、

* ひたものもちを食ふ。をりからひとりにはかにいひ出しけるは、「やれやれ 頬ほが * ① すぐみ、口のあかれぬやまひが出たは。」とて頭あたまをさげ、難儀なるさまなりしかば、人みな * 肝をけし、② ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ はいかなる事ぞ。」とうかがひ

見けるに、 * あみがさを * 着ながらもちを食はんとせし故なり。あみがさの 緒をを解き、頬ほをさすりて、いかがあるやと問ふに、かの男しばらく思索して、 * 秘事は * ③ まつげぢや。」と。

〈安楽庵策伝「醒睡笑」より〉

(注) 思ふどち 気の合った者同士。

清水 京都市東山区の清水寺。

ひたもの どんどん。

すぐみ かわばって。 肝をけし ぎょうてんして。

あみがさ スゲ・わらなどで編んだ、ひもで顔に結びつける笠。

着ながら かぶったまま。 秘事 物事の秘訣や秘伝。

まつげ まぶたに生えている毛。

□(1) 本文中には一か所、会話を示す「——」を省いたところがあります。その会話をそのまま書き抜いて答えなさい。

□(2) ——線①「頬がすぐみ、口のあかれぬやまひ」はなぜ起こったのですか。その原因を述べている部分を本文中から二十一字(符号は含みません)で探し、その最初と最後の二字を書き抜いて答えなさい。

練成問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある人^①のいはく、年五十になるまで上手にいたらざらん芸をば捨つべきなり。はげみ習ふべき行末もなし。老人のことをば人もえ^②。衆に交はりたるも、あいなく見ぐるし。

おほかた万^③のしわざはやめて、いとまあるこそ、^④めやすく、^⑤あらまほしけれ。世俗のことにたずさはりて生涯を暮らすは、下愚^⑥の人なり。^⑦ゆかしくおぼえんことは、学び聞くとともに、その^⑧おもむきを知りなば、^⑨おぼつかなからずしてやむべし。もとより望むことなくしてやまは、第一の事なり。

〔吉田兼好「徒然草」第百五十一段より〕

□(1) ※に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 笑ふ
- イ 笑はず
- ウ 笑ひぬ
- エ 笑ふなり

□(2) 線①「の」と同じ意味・用法のものを、次のそれぞれの文の——線部から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 父の大納言は亡くなりて
- イ 僧の衣に雪降り積もりて
- ウ 児のひしひしと餅食ひて
- エ 鬼のやうなるもので来て

□(3) 線②「めやすく」、③「あらまほしけれ」、④「ゆかしく」、⑤「おもむき」の意味として最も適切なものを、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- (2)
 - ア 容易で
 - イ 安らかで
 - ウ 感じがよく
 - エ 高価でなく

□(3)

- ア 優しいことだ
- イ 望ましいことだ
- ウ ありがたいことだ
- エ めったにないことだ

□(4)

- ア 惜しく
- イ 知りたく
- ウ 懐かしく
- エ 奥ゆかしく

□(5)

- ア 方向
- イ 限界
- ウ 奥儀
- エ 様子

⑤	④	③	②

□(4) 線⑥「おぼつかなからずしてやむべし」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 中途半端でやめるのがよい。

イ わからないままやめるのがよい。

ウ 一通りわかった程度でやめるのがよい。

エ 最後までやり通してからやめるのがよい。

□(5) 次のそれぞれの文から本文の内容と合致しないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 年をとって、多くの人の中にいるのはとても見苦しいものだ。

イ 年をとると、たいていの人は仕事をやめてしまうものなのだ。

ウ 年をとってから、世間のことに関わりあうのはばかっている。

エ 年をとったら、余計な望みを持たないことが、最もよいことだ。

2 次の漢詩とこれをもとにした説話とを読んで、あとの問いに答えなさい。

孟 宗
 泪 滴 朔 風 寒 (注) 泪 朔 風 寒
 簫 竹 数 竿 出
 須 臾 春 報 平 安

簫々 数本のさびしいさま。
 数竿 数本。
 須臾 わずかな間。

孟宗は、*いとけなくして父におくれ、一人の母を養へり。母年老いて、つねに*病みいたはり、食の味はひも、度ごとに変はりければ、*よしなきものを望めり。冬のことなるに、竹の子をほしく思へり。*すなはち、孟宗、竹林に行き求むれども、雪深き折なれば、②などかたやすく得べき。ひとへに、天道の御あはれみを頼みたてまつるとて、③祈りをかけて、おほき5に悲しみ、竹に寄り添ひけるところに、にはかに大地開けて、竹の子あまた生ひ出で侍りける。おほきに喜び、*すなはち取りて帰り、*あつものにつくり、母に与え侍りければ、母、これを食して、そのまま病もいえて、④齢を延べたり。これ、ひとへに、孝行の深き心を感じて、天道より与へ給へり。

〈「御伽草子」より〉

(注) いとけなくして父におくれ 幼いうちに父に先立たれ。

病みいたはり 病みわずらい。

よしなきもの 手に入れる手段のないもの。

すなはち 前者は「そこで」、後者は「すぐに」の意。

あつものにつくり 吸い物にこしらえ。

□(1) 線①「よしなきもの」として、具体的に出されているものを説話中から書き抜いて答えなさい。

□(2) 線②「などかたやすく得べき」の口語訳として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア なぜ、たやすく手に入れることができたのだろうか。
- イ どうしたら、たやすく手に入れることができるのだろうか。
- ウ どうして、たやすく手に入れることができようか。
- エ どうにかして、たやすく手に入れたものだ。

□(3) 線③「祈り」にあたる部分を説話中から十六字で探し、最初と最後の三字を書き抜いて答えなさい。

□(4) 線④「齢を延べたり」を口語に直して答えなさい。

□(5) 次のそれぞれの事項から、A漢詩・説話の両方に書かれているものを二つ、B漢詩にはなくて説話だけに書かれているものを一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 孟宗の生い立ちと境遇
- ウ 真冬の寒々とした様子
- オ 故意にわがままを言う母
- イ 天道の気まぐれな報復
- エ 途方に暮れて悲しむ孟宗

□(6) 漢詩の転句「須臾春笋出」にあたる部分を説話中から二十四字（読点を含みます）で探し、最初と最後の四字を書き抜いて答えなさい。

(7) 漢詩の結句「天意報平安」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□(1) 平安を報じたのは誰ですか。説話中から書き抜いて答えなさい。

□(2) 平安を報じたのはなぜですか。その理由にあたる部分を説話中から十字で書き抜いて答えなさい。